ｂＰＳ演習⑦　ＫＪ法＆ポスターセッション

ＫＪ法とは？

「ＫＪ法」の創始者は文化人類学者・川喜多二郎氏である。意見やアイディア、情報をたくさんカードに書き出して、問題点や解決策を次第に明確にさせる方法だ。問題会解決の糸口がみつかりにくいものや、たくさんの情報を収集・整理したいときによく使われる。
書き出すカードは質より量、つまり内容を深く詰めた妙案１つより、思いつきのアイディア１０こがよい、というのがこのＫＪ法を楽しくするコツだ。

準備物

ふせん、マジック、模造紙

テーマ　「武生高校を日本一の高校にするためには？」

【ＫＪ法＆ポスターセッションの進め方】

①１枚のふせんに１項目（１アイディア）を書く。自由なアイディアをたくさん出す。質より量です！ ふせんは模造紙にはりつけ、みんなが見えるようにする。
②共通点のあるふせんをグループ（３～４）にまとめ、タイトルをつける。グループにしづらいものは、そのまま置いておく。模造紙にまとめ、タイトルも模造紙に書く。
③　②からテーマに対するグループの意見をまとめ、模造紙に書く。
④ポスター発表をする。グループを半々に割り、一方はポスター発表をし、もう一方は他のグループのポスター発表を聞く。

ｂＰＳ演習⑦　まとめプリント

演習⑦ルーブリック

学習活動	ＫＪ法を学びながら、テーマに対して自由な意見をたくさん出し、グループで意見をまとめ、ポスター発表をする。
期待以上（S）	ＫＪ法を理解した上で、テーマに対して自由な意見をたくさん出し、グループで意見をまとめ、ポスター発表で論理的に説明したり、他のグループの発表をしっかり聞くことができる。
十分満足（A）	ＫＪ法を理解した上で、テーマに対して自由な意見をたくさん出し、グループで意見をまとめ、ポスター発表で説明したり、他のグループの発表を聞くことができる。
おおむね満足（B）	ＫＪ法を理解した上で、テーマに対して自由な意見をたくさん出し、グループで意見をまとめることはできるが、積極的にポスター発表に参加することはできない。
努力を要する（C）	ＫＪ法を理解できるが、実際テーマに対して自由な意見をたくさん出したり、グループで意見をまとめたりすることができない。

ルーブリックによる評価

本時のまとめ	感想